



子育てチャンネル

旭山動物園に夏が来る—50回目はどんな夏？

7月1日、50回目の開園記念日を迎えました。開園記念日は、職員が集まり、毎年就業前の早朝に動物慰霊碑の前で慰霊を行っています。いつもはこの一年間を振り返るのですが、今年

は50年間という節目なので、過去50年を振り返る気持ちになりました。

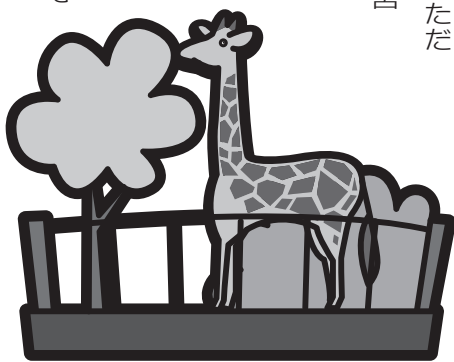
たくさんの動物たちの姿が思い出され、改めて僕も動物園も動物たちに育てられてきたことに気づかされました。開園当初からの動物は、カバのサブコを最後にいなくなりました。たくさんの動物の誕生と死があり、命を繋いできました。

みなさんの中に、旭山動物園での思い出はどのくらいあるのでしょうか？ 昔のアルバムを見返してみてください。きっと

みなさんの心の中で生き続けている旭山動物園の動物たちがいるはずですよ。

旭山動物園は観光地として捉えられることが多くなりましたが、本来動物園は何度も足を運んでいただき、生命の営みを見続けてもらう場、地元の人たちとともにある場所なのだと思います。

さて、気づけばもう夏です。トナカイやクマタカ、ニホンサルなどたくさんの命が誕生しています。昨年誕生したユキヒョウやアムールトラはぐんぐん成長し、今では母親と見



分けがつかないくらいになりました。キリンやカバはそろそろ繁殖適齢期を迎えます。

シロテテナガサル、オランウータンの子はまだまだ子供ですが、母親から離れて遊ぶ時間が増えてきました。オラン

ウータンの子モ力はなんと一人で空中散歩です。見ているのですが、母親のリアンは3頭目の子育て中です。モ力はとてもお転婆娘ですが、リアンが許しているのだから大丈夫だろう、と思えるまでの立派な母親になりました。

クモサル・カピバラ館のカピ

バラ、昨年に最後の1頭が死亡し、いなくなっていました。その後僕たちも驚くくらい多くの方から「カピバラいないの？」と質問を受けましたが、夏休み前には新たな個体が旭山にやってくる予定です。

50周年だからと新たな施設の建設など特別なことはないのですが、さまざまな手作りイベントを企画しています。お盆には恒例の夜の動物園も行います。たくさんの人に支えられ歩んできた旭山動物園。ぜひ思い出をひも解いて、その思いとともに旭山動物園に足を運んでいただけたらと思います。

旭川市旭山動物園

園長 坂東 元